

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

施設系中規模木造建築物対応CAD研修実施される

— 1～3級コースも開催 —

当協会は、平成 26 年度のプレカット CAD 技術者研修のうち、新たに、施設系中規模木造建築物に対応した研修を平成 27 年 2 月 24 日（火）に東京都江東区新木場 木材会館 7 階ホールにおいて受講者 68 名の参加のもとで開催しました。

これは、現在、大部分の CAD オペレーターは木造住宅等の小規模木造建築物のプレカット加工図の作成には精通していても、中大規模木造建築物を扱うことになると、CAD オペレーターと工務店等の設計担当者との係わりも小規模建築物とは変わり、中大規模木造建築物に対応し知識、能力がないと、これらの構造計画について助言、提案は難しい状況にあります。

このため、受講資格として、プレカット CAD 技術者認定 2 級以上に登録されている者、若しくはプレカット CAD オペレーターとしての実務経験が 5 年以上の者に限定し、また、より多くのプレカット工場からの参加を可能とするため、1 事業所当たりの参加者は 2 名以内としました。カリキュラムは、①施設系中規模木造建築物とプレカット工場の今後（講師：オプコード研究所 野辺 公一氏）、②施設系中規模木造建築物を関連法規、施設系中規模木造建築物における木材の知識（講師：ものづくり大学 教授 小野 泰氏）、③



構法・構造の講義を行なう山辺先生

施設系中規模木造建築物の構法・構造（講師：山辺構造設計事務所 山辺 豊彦氏）、④施設系中規模木造建築物における構造材の考え方（講師：村上木構造デザイン室 村上 淳史氏）とし、講義のレベルは、既に、小規模木造建築物（四号建築物）を独自で CAD 入力ができ、これに関連する木質材料、木質構造、関連法規等について熟知していることを前提に講義を進めました。

受講者からは、「中大規模木造建築物になると、関連法規の係わりと構法の種類が多くなり、住宅とは対応の考え方を変えていく必要がある。」、「中規模木造建築物におけるプレカット工場の立ち位置や設計者と意思疎通するための知識や技術的用語が勉強になった。」等の声があり、今後、新たな需要分野に対して各地のプレカット工場の対応が期待されます。

一方、1～3 級コースについては、① 1 級コース：東京（木材会館）3 月 5、6 日、15 名参加、② 2・3 級コース：東京（木材会館）1 月 20、21 日、2 級 61 名、3 級 7 名参加、名古屋（名古屋木材会館）2 月 3、4 日、2 級 53 名、3 級 6 名参加で実施しました。

新たな需要分野への技術対応力の強化を

— 平成27年度事業計画及び収支予算が承認される —

当協会は、3月17日(火)に平成26年度第2回理事会を永田町ビル4階中会議室において開催しました。

理事会の冒頭、櫻井会長から、「我が国経済は、アベノミクスの推進により、景気は好転しつつあるが、依然として、地方においては景気回復の足取りには差異があり、より一層の経済対策が期待されている。昨年の新設住宅着工戸数をみると、消費税率引き上げ前の駆け込み需要が大きく影響し、一昨年に比べ9%減の89万戸と5年ぶりの対前年比での減少になった。このようなことから、プレカット加工業の業況は、昨年前半までは受注残もあったことから比較的安定した稼働が続いたが、年後半においては受注が減少し、競争条件の激化により加工単価は低迷を続け、これに加えて、円安の影響から資材価格の上昇分の価格転嫁が難しい状況が続いた。今後、木造住宅分野の市場の縮小が懸念される中で、新たな木材需要拡大対策として、非住宅の中大規模木造建築物が注目されている。当協会では、このような需要分野の変化に対応するため、プレカット加工業としての関わりを技術面、業務面から支援し、新たな分野への対応を進めていきたい。」旨の挨拶がありました。

議事においては、まず、議題1「平成27年度事業計画(案)及び平成27年度収支予算(案)について」が事務局から提案説明され承認されました。引き続き、議題2「その他」で、事務局から、①平成26年度に新たに実施した施設系中規模木造建築物(非住宅建築物)に対応したプレカットCAD技術者研修の概要、②プレカットCAD技術者基準に基づくプレカットCAD技術者研修(1級～3級)の実施状況、③研修修了者で修了考査が基準点に達した受講者を対象としたプレカットCAD技術者認定登録の状況等について説明があり、これらについては平成27年度においても実施することが了承されました。

なお、今回の理事会で承認された「平成27年度事業計画及び平成27年度収支予算」は、6月16日(火)に開催される第5回定時社員総会(会場:スクワール麹町)に報告されます。

第6回「新たな木材利用」事例発表会開催される

— 「木材利用」の異議と効果の見える化 —

一般社団法人全国木材組合連合会と木材利用推進中央協議会の共催で2月12日(木)に東京都江東区新木場の木材会館7階ホールにおいて、第6回「新たな木材利用」事例発表会が開催されました。この発表会には、木材関係者を初めとして150名の参加があり、新たな木材利用についての関心の高さをうかがわせるものになりました。

事例発表の第1部においては、「木材利用の意義とその効果の見える化」について、東海大学教授 杉本洋文氏が「中・大規模建築物を木造化、木質化する科学的根拠とその評価」、独立行政法人森林総合研究所 研究コーディネーター 木口実氏が「木の街づくり事例とその効果」の発表を行い、主として、中大規模木造建築物を生産する場合の技術的課題や木材利用が環境負荷を軽減していることについて説明されました。また、第2部においては、「木材を使った街づくり」事例とその評価について、埼玉大学教授 浅田茂裕氏が「学校の木質化と児童・生徒・先生の意識」、筑波大学教授 安梅勅江氏が「木育と木材利用のエンパワメント効果:生涯発達における科学的根拠」、秋田県農林水産部 林業木材産業課 班長泉山吉明氏が「秋田県の木造・木質事例の効果と新たな流れ」、港区環境リサイクル支援部環境課 係長 早藤潔氏が、「みたとモデルによる都市開発事例の状況と効果」について発表され、特に、学校を木質化した場合のこどもの成長に及ぼす効果等について具体的な調査事例に基づく説明とともに、行政担当者からは公共建築物の木造化、木質化についての具体的な取り組み事例の発表がありました。

このような各方面での木材利用の促進は、二酸化炭素の固定ばかりでなく木のある生活が心と体の安らぎを与えるものであり、中大規模建築物の木造化や木を使った街づくりの促進により木材利用のPRになることが期待されています。

平成26年 協会会員工場基礎調査結果について(第1回)

— プレカット用資材の材種別使用状況 —

平成26年に協会会員工場で使用した資材について、国産材、輸入材別にグリーン材、KD材、集成材等の使用割合について集計、分析を行いました。(調査工場数:42工場)

国産材

使用割合 (%)	グリーン材	KD材	集成材等
0～10	28	5	19
11～20	8	1	4
21～30	3	4	6
31～40	2	2	1
41～50	0	3	2
51～60	0	8	1
61～70	1	2	4
71～80	0	7	1
81～90	0	7	2
91～100	0	3	2
平均使用率(%)	12.1	57.9	30.0
中央値(%)	10	60	20
(平均使用率(%))	(14.2)	(50.8)	(35.0)
(中央値(%))	(10)	(50)	(20)

輸入材

使用割合 (%)	グリーン材	KD材	集成材等
0～10	32	5	2
11～20	9	2	3
21～30	1	7	4
31～40	0	6	10
41～50	0	12	7
51～60	0	5	5
61～70	0	2	4
71～80	0	1	2
81～90	0	1	4
91～100	0	1	1
平均使用率(%)	7.6	42.9	49.5
中央値(%)	10	50	45
(平均使用率(%))	(7.2)	(45.9)	(46.9)
(中央値(%))	(5)	(50)	(40)

◇簡単なコメント

1. 国産材においては、グリーン材の平均使用率は年々低下しており、今回調査では、12.1%と前回調査時(平成25年12月)に比べて2.1ポイント低下した。一方、KD材の平均使用率は、57.9%で7.1ポイント上昇し、中央値においても60%になっている。住宅着工数が減少している中で、国産材KD材の供給は確実に行われており、シェアが拡大していることがうかがわれる。また、国産材集成材は、平均使用率が30.0%と5.0ポイント低下し、国産KD材と輸入集成材との競合が原因と推測される。
2. また、輸入材においては、KD材の平均使用率は42.9%で3.0ポイント低下したが、輸入材集成材の平均使用率は49.5%と2.6ポイント上昇した。緩やかではあるが、横架材を中心として、KD材から集成材へのシフトが見られると推測される。

プレカット業況調査(平成27年2月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ(回答率:62%)

設 問	回答率(%)			DI	前回DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	14	35	51	- 37	- 6
1-2 3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	35	51	14	+ 21	- 50
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答:6,140円(対前回調査+40円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	93	7	- 7	- 6
3-2 3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	88	12	- 12	- 28
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	44	56	0	+ 44	+ 19
4-2 3ヶ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	19	74	7	+ 12	- 12
5-1 今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	7	44	49	- 42	- 21
5-2 3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	26	51	23	+ 3	- 62

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査:平成26年11月

◇簡単なコメント

2月の各設問のDIのうち、3ヶ月前との比較においてみると、資材関係以外は総じてマイナス幅が拡大しているが、3ヶ月後の予測については加工単価以外がプラスになっている。一方、加工単価は、横ばいで推移するものとみられるものの、3ヶ月後の予測はマイナスになっており、今後の動向に関心が持たれる。春の訪れとともに、業況の回復への足取りが早まることが期待される。

1. 受注額のDIは-37で前回調査時(平成26年11月期)よりもさらにマイナス幅は拡大している。住宅着工数が、消費税率引き上げによる駆込み需要の反動減が依然として影響していることと、冬場の不需求期が重なったことが原因と思われる。一方、3ヶ月後の予測のDIは、+21と明るい予測になっており、受注額の好転が期待される。
2. 3ヶ月前と比較した製品加工単価のDIは-7であったが、平均総加工単価は6,140円と3ヶ月前に比べて40円上昇しており、比較的落ち着いた動きといえるであろう。しかし、3ヶ月後の製品加工単価のDIは-12と予測されており、下落基調に転じるおそれは払拭されていない。
3. 資材入手状況のDIは+44であった。前回同様、円安の中であっても需要が低迷していることから今後の資材メーカーの出荷体制等の動きが注目される。
4. 3ヶ月前と比べた収益のDIは-42になり、前回調査時の3ヶ月後の収益予測に沿うものになっている。3ヶ月後の収益の予測は+3となっており、業況回復の兆しとなり得るか期待される。